

鳥養利三郎関係資料

『鳥養利三郎関係資料』（以下、「鳥養資料」と表記）は、敗戦直後に京都帝国大学総長となった鳥養利三郎が所蔵していた文書類であり、泉孝英京都大学教授（現名誉教授）より百年史編集史料室に寄贈され、2002年3月の同室閉室とともに京都大学大学文書館に移管された。本稿では、鳥養資料の目録を掲載して利用の便に供するとともに、資料についての理解を深める手がかりとして簡単な解説を付すことにする。

[解説]

1 鳥養利三郎について 一総長時代を中心に

鳥養利三郎は、1887（明治20）年2月8日、徳島県に生まれた。鳥養の略歴は次のとおりである。

- 1909年 7月 第三高等学校卒業
- 1912年 12月 京都帝国大学理工科大学卒業
- 1914年 7月 京都帝国大学工科大学助教授
- 1923年 1月 京都帝国大学教授（工学部、電気工学第三講座）
- 1941年 9月 京都帝国大学工学部長（～1943年9月）
- 1943年 10月 京都帝国大学工学研究所長（～1945年10月）
- 1945年 11月 京都帝国大学総長（1949年5月より京都大学長、～1951年11月）
- 1946年 8月 教育刷新委員会委員

- 1947年 7月 大学基準協会副会長
- 1949年 10月 日本学士院会員
- 1951年 11月 京都大学名誉教授
- 1961年 8月 日本ユネスコ国内委員会会長
- 1976年 9月 死去

鳥養関係の著作としては、鳥養および彼の総長時代の幹部職員など8名で作られた「仁友会」が編集した彼らの座談会記録である『敗戦の痕』（1968年、非売品）、鳥養の米寿記念に門下生が随筆・記念講演を出版した『鳥養利三郎先生随筆集』（1974年、非売品）がある。また、京都大学七十年史編集委員会が行った聞き取り「分校問題・パージ問題について」（1967年、非公開）もある。しかし、いずれも分量的に少ない上に、広く読まれているとは言い難く、鳥養についての研究はほとんど行われていない状況である。

鳥養が所属していた工学部電気工学第三講座は、「電気工学の基礎理論を講述・研究する目的を以て設置せられたもので」「電気磁気学・交流理論並にその応用に関する学科を以て構成され、而してこれ等を取扱ふ手段が主として工学的であるのをその特長としてる」⁽¹⁾ たのだという。鳥養は、「変圧器捲線」に関する研究で学位を授与されたほか、多様な研究に従事しており、また「電気事業主任技術者検定委員・朝鮮総督府並に満洲国水力電気建設局囑託として、送電網の計画建設に協力し多年陸海軍の諸研究に参与せる外、大阪

帝国大学工学部開設の当初これを援助せるところ
少なかった」⁽²⁾ともいう。

敗戦直後の1945年10月、深まる戦時体制のなかで1938年以来総長の任にあった羽田亨が辞任、後任総長候補者として学内の選挙によって鳥養が選ばれ、11月1日付で第13代総長に就任した。選考の詳細は明らかではないが、すでに工学部長などを歴任し「有力教授」であった鳥養にすんなり決まったのではなかろうか。

1951年11月1日までという鳥養の総長在任期間は、日本がGHQによって占領されていた時期とほぼ重なる。鳥養総長の6年間は、京大の歴史のなかでも最も波瀾に満ちた期間であったと言っても過言ではないであろう。

就任した鳥養が最初に行ったのが、滝川事件(1933年)で辞職した法学部教授の復帰であった。11月14日、復帰の前提として、前田多聞文相との間で大学自治の滝川事件以前の状態への回復について合意を取り交わした鳥養は、滝川幸辰の法学部長としての復帰を実現させた⁽³⁾。

その後京大では、法学部や経済学部での教官辞職、占領軍による施設接収、教員適格審査といった、「戦争の後始末」的な事件が続いた。一方、1946年8月に首相の諮問機関として教育刷新委員会が設置され、そこでの議論に基づいて翌年3月に学校教育法が公布されると、新学制への対応が次の課題となった。GHQや文部省との折衝を行い、他の帝国大学との連携を保ちながら、学部学科・講座・研究所等の組織計画を作成し、第三高等学校との合同問題、一般教養課程の設計と宇治分校の設置、教育学部の設置等に指導力を発揮した。

また、不安定な経済状況や冷戦の開始を背景にこの時期激化していった組合運動や学生運動に対しては、一貫して強硬な姿勢をとった。鳥養在任の後半には、看護婦事件⁽⁴⁾、レッドパージ反対運動⁽⁵⁾、前進座事件⁽⁶⁾など、学生運動関係の事件が

頻発したが、「外力と結ぶことは、常に自治破壊行為である」(識別番号：鳥養一67)と考える鳥養は学生運動の背後に学外の勢力があるとみて、厳しい処分を行うことに躊躇しなかった。

この他にも鳥養は、前述の教育刷新委員会には委員として、また大学設置基準案などを策定した大学基準協会には副会長として深く関与し、戦後大学制度の設計に関わった。

鳥養は、新制発足後最初の入学式(1949年7月7日)における式辞で、大学の二類型を提示している。その「第一の型は学問研究を通じて各分野に於ける専門家を養成することを主要目的とし」ている大学であり、「第二の型は勿論専門教育を忘れるものではないが、主なる目的を人格の完成に置く」大学であるという。そして、第一の型は「一面全体主義社会の所産であるとの見解も否むことは出来ない」として、民主主義社会においては「大学も亦第二の型に近かなければならぬのは当然」⁽⁷⁾と、新制大学の理念を後押ししていた。その一方で後年の回想において鳥養は、「大学というものの性格というか、あり方についてはもう少し、はっきりしなければいけません。私は、京都大学は、学問するところだと考えているから、強いて多くの学生が来なくてもよい。ほんとうに学問する者だけでよいと、いう建前で来た。最近では、職業を授けるという考え方の大学が多くなってきて、国民の多くが、大学に入学するようになった。そして、程度の低い学校への希望者が比較的少ないから、下の方で働く人間が少なくなってしまう」「これを救う道は、現在の大学の大部分を職業教育の場としてしまって、少数の大学だけを、スーパー大学すなわち、上級の大学にするよりほかに手がないのではないか」⁽⁸⁾と、新制大学の理念であった高等教育の開放、大学の対等性に疑義を呈している。二つの見解には少なからず距離があるように受け取れるが、鳥養資料にあるメモ類などと突き合わせてみると、後者の方が総

長時代の鳥養の本音に近かったのではないかと考えられる。帝国大学としての伝統や特殊性を、いかに維持したまま新制度の大学に移行できるかに腐心する鳥養は、同時期に東大総長になり、同様に教育刷新委員会に加わっていた南原繁とは異なった総長像を見せていたのではなかろうか。

2 鳥養利三郎関係資料について

現在公開している鳥養資料の総点数は440点である。そのほとんどは、総長就任以後に作成されたものと考えられる。総長就任以前のものとしては、1933年と推定される綾部の郡是製糸工場見学について記したエッセイ「一刀三礼の精神」（鳥養一419）と1934年における半年間の欧米出張時に記した日記（鳥養一230、231、232）しか存在していない。資料中で、最も目に付くのはメモや草稿のたぐいである。罫紙に書かれているものもあれば、A6判程度のメモ用紙に書きなぐったようなものもある。おそらくは、何らかの講演や会合、文章の執筆のために事前に書き留めたものであろう。时期的にも、総長在任中から1970年代と推定されるものまであり、内容的にも京大の歴史や大学における研究の自由について、関係していたロータリークラブやユネスコについてなど、多岐にわたっている。年代確定が難しいものが大部分を占めているが、その時々鳥養の率直な意見や物の見方が記されていて、興味深い。その他、点数は多くないが、京大の公的資料（鳥養一28、30、31、37、38、48、49、50など）、総長会議関係資料（鳥養一68、69、70、72、104、105など）などは敗戦直後の京大を取り巻く状況を生々しく伝える貴重な資料である。一方、総長就任後に関係していた教育刷新委員会や大学基準協会に関する資料は、全く含まれていない。

なお、鳥養資料は百年史編集史料室に寄贈される前に、すでに旧蔵者によって整理が行われていた。メモ類は台紙に貼付され、各資料はAからO、

α、β、①から⑦のクリアファイル等に収められていた。大学文書館での目録作成にあたっては、この整理をそのまま踏襲して「所在番号」とした上で、新に通し番号を付して「識別番号」とした。

以下、鳥養資料を手がかりとして研究を深めることが可能と思われる論点をいくつか提示しておく。第一は旧制帝国大学における教育学部の設置問題である。1948年7月17日の国立総合大学（帝国大学は前年9月に「国立総合大学」となっていた）総長会議には、文部大臣をはじめとした文部省の高官だけでなくCIE（民間情報教育局）からも出席があり、CIE側がそれぞれ地元の師範学校を合併する形での教育学部設置を各総長に求めたのに対して総長側が激しく反発して、議論は紛糾した⁽⁹⁾。最終的には多くの旧帝国大学は師範学校を合併せず、独自に教育学研究の場としての教育学部を設置することになるこの日の会議について、鳥養は以下のようなメモを残している（鳥養一70）。

一、教育学部ノ設置。（七講座位ニ増ス→新規ニ組ミ直ス）（甲南ノ問題）（学生ハ無クトモ良シ。）京都ハ了承。全国的ノleaderヲ養成スルコト。及再教育ニ従事ス。〔府ノ教員養成ハ別個ノ問題。〕教育学ノ基礎ヲヤリ、ソレガ指導シテ別ニ養成学校ヲ附置ス。ソノ附置ノ意味ニテ師範ヲ考ヘテヨシ。

一、師範学校ヲ加フルヤ否ヤ。東大（文理大、女高師）追分ノミヲ吸収ス。実習学校トシテ

京都 京師、青師 京都府ノ教員教修ニハ非ズ。之レハ切り離ス。体育ヲモ入レル。七大学ハ全国的也。少クトモ、ブロックノ大学ノ性格ヲ堅持スベシ。故ニ高等学校以上ハ養成スルモ、府ノ教員養成ニハ関知セズ。現ニ京都、滋賀、兵庫ヲ援助シツ、アリ。更ニブロック全体ノ指導援助ハ大ニヤ

ル。府ノ教員ハ別ニヤツテ貰フ。

京大ノ教育学部ヲ先ヅ作ル。ソノ学部ガ、ブロック各府県全体ノ教員ノ養成及再教育ニハ何等ノ形ニテ大ニ援助ス。各府県ノ教員養成ハ各別ノ師範ニテヤルベシ。之レハ甚多数ノ生徒ナレバ止ムヲ得ズ。又教員及生徒ノ質ガ大ニ異ナル。

何等カノ形トハ制度的ニ合併スルコトヲ^[ママ]壁ケ、又府県ノ必要数ノ確保ノ責任ハ各府ガ持ツナラバソレ以外ノコトハスベテ援助スル。

何等カノ形トハ

- (1) ブロックノ中心トシテ再教育ニ努ム
- (2) 協定シテ何人カハ大学ノ学部ニ入レル。
- (3) 実験学校トシテ利用ス。お互ニ。学科ノ一部ハ学内デヤツテヤル。
- (4) 図書館融通ス。
- (5) 教授モ融通ス。

非合併ノ理由

- 理由(イ) 一定数ノ責任教員数ハ必ズ養成スルコトハ不可能也。教員養成ノ責任ハ持テヌ。コノ数ハ余リニ多過ギル。
- (ロ) 生徒ノ程度ハ大ニ異ナル。互ノ間ニ摩擦ヲ生ズル。
- (ハ) 入学基準ガ異ナル。
- (ニ) 量ノ教育(数が多イカラ)ニ走りテ従来ノ学部ノ本質ト反ス。コノ点ガ学問ノ本質ニ反スル。
- (ホ) 切り換ヘソノモノニ大多忙ニテ、師範迄同時ニ考フルコトハ不可能也。ソレ程問題ハ複雑也。

メモなので文意の通りにくいところはあるが、教育学部の設置について「京都ハ了承。全国的ノleaderヲ養成スルコト及再教育ニ従事ス[府ノ教員養成ハ別個ノ問題]」と、多くの旧帝国大学の意向を明確に記していることが分かる。

第二は、分校の設置である。新制大学発足に伴

って設置された一般教養課程は京大では分校と呼ばれ(1954年に教養部と改称)、1回生は陸軍火薬庫跡地にできた宇治キャンパス、2回生は第三高等学校の校地であった吉田キャンパスに分かれて講義を受けることになった。宇治に分校を設置することになった事情について、鳥養は以下のようなメモを残している(鳥養-372)。

◎何かを外へ持って行かなければならぬ。これは当初からのこと也何を持って行くかを考へれば分校以外にない。(纏めて持って行ける)

◎現に十数年前に大学の要望が原因となって桃山へ移転するに決定して居た。(戦争で中止)一高も東大の要望で移転した。農学部と換へた。これは必然のことだ。

◎グラウンドにして置けば後日又建築の敷地に出来る。グラウンドなら他に求めることが出来よう。

◎総合大学は専門研究室は近接すべきである分校はそれ自体が総合である。故に専門のものを切りはなして宇治へやることは不合理也。

◎グラウンドを宇治へ持って行ったのでは授業上困るし、又後日の発展利用に行きちがいが生ずる。(一部スポーツを切り離すことになる。)

京都大学は学部によって名声を得て居るのであり、又将来と雖学部の活動力によりて、発展するのである。元より分校を従属的に視るのでは更々無いが、何と云っても重点は学部である。依って分校に抱き込まれそのとりことなって大学発展の基礎を危くする様な策を取ってはならぬ。

第三高等学校を包摂し、従来の3年制が4年制となることで大学敷地の不足が懸念されていた。そこで鳥養は、当初分校をまとめて宇治に置くことを構想したが、「旧三高教官らの抵抗もあって」⁽¹⁰⁾

結果的に前述のように宇治と吉田に分割されることになった。鳥養が分校をまとめて宇治に置こうとした理由としては、「昔の高等学校というのは、よかったと思う。昔の古いナンバー高等学校時代からの伝統が、新設の高等学校にも、ずっと浸透していて、教育の場としては、非常にすぐれたものであった」と旧制高等学校の教育を高く評価する鳥養が「旧高等学校の精神を、青年期の学修時代に経験させるということは、大きな意義があると考えた。工学部や理学部や、医学部等と一緒にしてしまったら、前述のような雰囲気味わわせる場が、なくなってしまう。少し離すべきだと思う⁽¹¹⁾」と考えたからだとされていた。しかし、このメモからはそうした積極的な側面よりも、吉田キャンパスの狭さを考慮したとき「纏めて持つて行ける」のは分校しかない、という消去法的な発想を見て取ることができる。欄外には「随分分校の為に尽した。文句を云はれる理由は毛頭ない。云ふ奴はやっつける」という、宇治移転反対を主張する者へと思われるいらだちの文言も記されている。鳥養の生々しい本音がこのメモに表れていると見ることも可能であろう。

このように、鳥養資料には、京大における戦後改革を主導した鳥養の、制度史的視点からでは見えにくい本音の部分が垣間見られる資料が少なくない。その意味で、鳥養資料は戦後の教育改革をより立体的に考察するのに不可欠な資料ではないかと思われる。今後のさらなる利用が期待される次第である。

(京都大学大学文書館准教授 西山 伸)

〔註〕

- (1) 京都帝国大学『京都帝国大学史』1943年、475頁。
- (2) 同前、480頁。
- (3) 滝川のほか、恒藤恭が兼任教授として復帰した。
なお、滝川はこの時の鳥養の対応について「戦後に総長に就任してからの、鳥養総長のやり口は疾風迅雷ということばどおり、あっというまに京大事件の片をつけてしまった。まれにみる条件反射の早い人である」(滝川幸辰『激流 一昭和レジスタンスの断面一』河出書房新社、1963年、235頁)と高く評価している。
- (4) 1949年4月、医学部附属医院厚生女学部の卒業生が附属医院への採用不可を不当としてハンストを実施し、5月には菊池武彦医院長、6月には鳥養を拘束した事件。警官隊が導入され、放學2名を含む学生計6名が処分を受けた。
- (5) 1950年10月、学生自治会である同学会開催の「レッドパージ粉碎全学決起大会」においてストライキの決意を以て闘うことが決議されたのに対して、学生のストライキを禁止した告示に反ずるとして、学生4名が処分された。
- (6) 1950年11月、演劇部・文学同好会が前進座の俳優を招いて講演会を開催しようとしたところ、警官隊が導入され学生と衝突が起こった。これに対して、大学側の許可のないまま同学会が抗議大会を強行し、デモを実施したため、放學4名を含む計44名の学生が処分された。
- (7) 京都大学百年史編集委員会編『京都大学百年史』資料編2、2000年、965頁。
- (8) 前掲『敗戦の痕』69頁。
- (9) この日の会議については、当時文部省学校教育局長として出席していた日高第四郎による回想がある(日高第四郎『教育改革への道』洋々社、1954年)。近年の研究では、羽田貴史『戦後教育改革』玉川大学出版会、1999年、110頁参照。
- (10) 京都大学百年史編集委員会編『京都大学百年史』総説編、1998年、487頁。
- (11) 前掲『敗戦の痕』74頁。

[目録の見方]

- 1 「識別番号」とは、大学文書館で整理の際に各資料に付した番号である。
- 2 「所在番号」とは、旧蔵者によってクリアファイルに整理されていた各資料に、それぞれのクリアファイル単位で付した番号である。
- 3 「年」は西暦で表記している。
- 4 年月日の次に「*」を付しているのは、資料中に明らかな年代の表示がなく、目録作成者が年月日を推定したことを意味している。
- 5 資料名に「 」を付しているのは、資料中に明らかな表示がなく、目録作成者が内容から資料名を記入したことを意味している。

[目録]

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養	1 A-1	1950			REORGANIZATION OF JAPANESE UNIVERSITIES	BY Risaburo Torikai, President Kyoto University 自筆訂正あり
鳥養	2 A-2	1950		*	『アメリカの高等教育に就て』	京都大学 1950.5.20 鳥養学長帰朝報告会講演要旨 自筆書込あり
鳥養	3 A-3				制規類目録	16 枚、学則、学生生徒、学位、委員会、処務など (1946 年以前のもの) 書込あり
鳥養	4 A-4-1	1957			旅行日記	東南アジア大学視察 (6 月 20 日～7 月 24 日)
鳥養	5 A-4-2	1959	1	3	『文部広報』第 257 号	自筆書込あり
鳥養	6 A-4-3				「思いだすままに」(特別寄稿鳥養利三郎先生)	「中立 PTA 会報」との異筆書込あり、メキシコ旅行関係
鳥養	7 A-5	1949	4	28	日本学術会議運営審議会 (第七回) 記録	1 枚 自筆書込あり
鳥養	8 A-6-1	1949	5		日本学士院会員候補者の推薦について	1 枚「運営審議会資料 13」と書込あり、日本学術会議長亀山直人より日本学士院会員候補者選考委員会委員長山田三良宛
鳥養	9 A-6-2				日本学士院会員候補者推薦規程	1 枚
鳥養	10 A-6-3	1949	4	28	日本学士院分科規程	1 枚 自筆書込あり
鳥養	11 A-6-4				日本学士院会員候補者の推薦とその選考について	1 枚 自筆書込あり
鳥養	12 A-6-5				日本学士院会員候補者選考委員会運営規則	2 枚 自筆書込あり
鳥養	13 A-7	1949	2	4	『学報』(号外)	教育公務員特例法施行令など 自筆書込あり
鳥養	14 A-8	1949	1	25	『学報』(号外二)	教育公務員特例法 自筆書込あり
鳥養	15 A-9	1949	1	25	『学報』(号外三)	政府職員の新給与実施に関する法律 自筆書込あり
鳥養	16 A-10	1949	1	25	『学報』(号外一)	国家公務員法 自筆書込あり
鳥養	17 A-11	1949	8	2	『学報』(号外十一)	教育職員免許法施行法
鳥養	18 A-12	1949	12	13	講話要旨	7 枚 電気工学研究について
鳥養	19 A-13	1948	2	25	『列国の科学技術政策に関する研究 (第 44 号) -ニューネスコ第一回総会-教育部門』	4 枚 科学教育局科学資料課
鳥養	20 A-14	1948	3		『ソ連邦科学教育資料 (1946 年 4 月～5 月) -高等教育省附属高等教育機関-第 7 集』	9 枚 文部省科学教育局科学資料課
鳥養	21 B-1				〔イールズ新潟演説への謝辞草稿〕	3 枚 賛意を示す「イールズ博士への謝辞」との異筆付箋あり
鳥養	22 B-2				共産主義と教育 (11 月 4 日付日本タイムズ紙上) イールズ博士新潟演説の敷衍	8 枚 自筆書込あり
鳥養	23 B-3				post 9 月 10 日 What shall we do about Communist Teacher	1 枚 本文は日本語
鳥養	24 B-4	1948	7	15	OUTLINE OF PROPOSED LAW GOVERNING UNIVERSITIES	9 枚 裏に学生ストライキについての自筆書込あり「総長会議か」との異筆付箋あり

識別番号	所在番号	年	月	日	資	料	名	備	考
鳥養	25	B-5-1	1948	7	24	[ストに対する警告]		1枚 総長より京大職組中央執行委員長宛「組合関係」との異筆付箋あり	
鳥養	26	B-5-2				対組合問題		7枚	
鳥養	27	B-5-3				[組合対策に関するメモ]		1枚	
鳥養	28	B-6	1949	5	24	辞職願		1枚 京大事務局長心得内藤敏夫 文部大臣宛	
鳥養	29	B-7				厚生女学部卒業生の看護婦不採用問題に関する責任		1枚	
鳥養	30	B-8	1949	5	20	辞職願		1枚 京大附属院長菊池武彦	
鳥養	31	B-9	1949	5	20	辞職願		1枚 京大附属院長菊池武彦	
鳥養	32	B-10				[研究の自由に関する文章草稿]		3枚「不明」との異筆付箋あり	
鳥養	33	B-11				[アメリカ視察旅行中の各大学についてのメモ]		5枚「アメリカ視察旅行メモか」との異筆付箋あり	
鳥養	34	B-12				[米英独仏の大学制度についてのメモ]		7枚 京都ロータリークラブ箋「不明」との異筆付箋あり	
鳥養	35	B-13				[大学の使命に関するメモ]		5枚 台紙に「メモ(年月日不詳)」との異筆書込あり	
鳥養	36	B-14	1947	5	7	『職階制の概要』		職階給与制度調査資料(第四冊)大蔵省給与局 RS、ヘヤー氏講義局内限とあり	
鳥養	37	C-1	1948			行事表		京都大学 スケジュール等の自筆書込あり	
鳥養	38	C-2	1948	5		学生生活の実態		13枚 京都大学学生課 自筆書込あり	
鳥養	39	C-3	1948	2	28	新学術体制について		10枚、付箋あり	
鳥養	40	C-4				[新制大学についてのメモ]		1枚	
鳥養	41	C-5				[労働問題についての科目設置に関するメモ]		1枚	
鳥養	42	C-6				[大学自治・新制大学などに関する会議事メモ]		2枚 メモ貼り付け	
鳥養	43	C-7-1	1948	7	24	弔辞(故名誉教授小西重直)		1枚	
鳥養	44	C-7-2	1948	8	23	追悼の辞		3枚 小西重直によせて	
鳥養	45	C-7-3	1949	1	28	『学報』第2549号		叙任・事例、学生数統計	
鳥養	46	C-8	1957	8	23	東南アジア諸国を視察して		29枚 鳥養利三郎講演速記 民主教育協会近畿支部総会、「から」との異筆付箋あり	
鳥養	47	C-9-1				[学長候補者選考に関するメモ]		1枚 可否の書込あり「九月十五日決定」との書込あり「学長選考基準」との異筆付箋あり	
鳥養	48	C-9-2				京都大学学長選考基準(案)		3枚 自筆書込あり	
鳥養	49	C-9-3				学長選挙注意事項		2枚 修正書込あり	
鳥養	50	C-9-4				学長選挙注意事項		2枚 修正書込あり	
鳥養	51	C-10	1949	8	27	日本学術会議第五部会(第八回)記事		2枚	
鳥養	52	C-11-1				帝国学士院其他ノ研究体制ニ関スル協議代表者名簿		1枚 出席書込あり	

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養	53	C-11-2			〔研究体制、研究費分配方法についてのメモ〕	3枚 大学としての意見、総長個人の意見、各部局の意見
鳥養	54	C-11-3			〔学術研究体制に関する資料〕	1枚 自筆書込あり
鳥養	55	D-1	1950	11 1	『最近の学生事件の全貌』	早稲田大学 10頁 朱書込あり
鳥養	56	D-2	1946	3	TENTATIVE SCHEDULE of U.S. EDUCATION MISSION	36頁 使節団の予定表と団員リスト 鳥養の要求書も挟込あり 自筆書
鳥養	57	D-3	1950	11 27	『学報』号外二十九	3頁 前進座事件の処分告示
鳥養	58	D-4			〔アメリカからの帰国後の所感メモ〕	和文2枚と英訳文1枚
鳥養	59	D-5			〔学問の自由・集会の自由・学生補導などについてのメモ〕	2枚「不明」との異筆付箋あり
鳥養	60	D-6	1945	11 *	〔総長就任の辞草稿〕	4枚「総長就任」との異筆付箋あり
鳥養	61	D-7-1	1946	4 *	〔恩給・陸海軍復員学生の扱いについてのメモ〕	2枚「評議会？」との異筆付箋あり
鳥養	62	D-7-2	1946	4 15	四日市第二海軍燃料廠ヨリ燃料其ノ他ノモノノ持出し調査ニ関スル件	1枚 工學部長西原利夫より事務局長本田弘人宛
鳥養	63	D-7-3	1946	4 15	四日市第二海軍燃料廠譲受品調査ニ関スル件	1枚 理學部長駒井卓より総長鳥養利三郎宛
鳥養	64	D-7-4	1946	4 15	四日市海軍燃料廠ヨリ物品持出ニ関スル件	1枚 医学部附属医院院長三浦百重より総長鳥養利三郎宛
鳥養	65	D-8			〔大学運営に関する教授会の位置づけについてのメモ〕	1枚「不明」との異筆付箋あり
鳥養	66	D-9			〔研究の自由についてのメモ〕	1枚「不明」との異筆付箋あり
鳥養	67	D-10			〔研究の自由、大学自治と学生運動についてのメモ〕	5枚
鳥養	68	D-11-1	1947	5 26	帝国大学総長会議日程	1枚
鳥養	69	D-11-2			〔帝国大学総長会議議事メモ〕	4枚
鳥養	70	D-12	1948	7 17	〔総長会議議事メモ〕	9枚とマル秘のCIE11原則1枚 1948.7.6CIE11原則を受けた新制大学発足に向けての討議「総長会議」との異筆付箋あり
鳥養	71	D-13			〔師範学校生徒定員および実員数、教員及び事務官数調〕	〔7月17日総長会議〕との異筆付箋あり
鳥養	72	D-14	1946	2 5	〔帝国大学総長会議資料およびメモ〕	6枚「中等学校及高等学校等修業年限延長ニ関スル件」「女子教育刷新要綱」「帝国大学教職員現員表」など 通して1～16の番号あり no.1に「文相訓示」「総長会議」との異筆付箋、no.16に付箋あり
鳥養	73	D-15	1949	*	〔京大の一般教養学部関係資料およびメモ〕	メモ2枚 調査表7枚 敷地・設備・建物の試算メモおよび「一般教養学科目所要員数調」「一般教養学科目講座内容」
鳥養	74	E-1			〔民族の存続、思想・結社・集会の自由と暴力的運動との関係についてのメモ〕	2枚
鳥養	75	E-2			京都大学の略史	2枚
鳥養	76	E-3			〔学生の学内での活動に対する所感メモ〕	2枚
鳥養	77	E-4			〔京都大学教職員の整理についてのメモ〕	3枚「随想資料袋入」との異筆付箋あり

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養	78 E-5				〔日本の大学・研究についての所感メモ〕	2枚 海外と比較
鳥養	79 E-6-1				〔創立記念式の告辞についてのメモ〕	5枚 付箋あり
鳥養	80 E-6-2				〔戦争直後の状況についてのメモ〕	1枚
鳥養	81 E-7	1949	11	14	大学管理法に対する国立大学長会議の見解	10枚
鳥養	82 E-8	1950	6		〔新制大学の在り方〕	鳥養利三郎『電気評論』第38巻第4号1頁 自筆書込あり
鳥養	83 E-9	1950	8		〔再、大学の在り方に就いて〕	鳥養利三郎『電気評論』第38巻第6号1～2頁 自筆書込あり
鳥養	84 E-10-1				〔京都大学学制委員会についてのメモ〕	1枚
鳥養	85 E-10-2				〔在職中の回想メモ〕	1枚
鳥養	86 E-10-3				〔在職中の回想メモ〕	1枚
鳥養	87 E-10-4				〔研究の自由・大学の自治に関するメモ〕	2枚
鳥養	88 E-10-5				〔大学における政治活動の是非についてのメモ〕	3枚
鳥養	89 E-10-6				〔在職中の回想メモ〕	2枚
鳥養	90 E-10-7				〔在職中の回想メモ〕	2枚
鳥養	91 E-11	1951	10	*	〔在職中の回想メモ〕	3枚
鳥養	92 E-12				〔大阪舎密局〕〔舎密局について〕	『日本科学技術史大系21 化学技術』『生産と技術』16巻9号所収 〔御参考〕との自筆書込あり
鳥養	93 F-1	1967		*	〔京大の歴史に関するメモ〕	4枚 昭和40年代のメモ70周年記念頃との異筆付箋あり
鳥養	94 F-2	1969		*	〔大学自治、学問・研究の自由についての所感メモ〕	便箋7枚 メモ2枚 紛争時のメモかとの異筆付箋あり
鳥養	95 F-3	1969		*	〔大学の現状に対する非難と紛争処理についてのメモ〕	4枚 学園紛争のメモならんとの異筆付箋あり
鳥養	96 F-4	1969			〔大学紛争の問題点をつく〕	Roderick MacLeish 6頁『リーダーズ ダイジェスト』F-3の資料 か 前切れ
鳥養	97 F-5-1				〔自分の研究・研究の自由・大学自治などについてのメモ〕	4枚
鳥養	98 F-5-2				〔電波の研究・利用に関するメモ〕	1枚
鳥養	99 F-6-1				〔旧制大学の運営上の問題に対する検討方法についての要望〕	1枚 香川冬夫との異筆付箋あり
鳥養	100 F-6-2				文部省への要望	2枚 農場問題
鳥養	101 F-7-1				〔官僚攻撃と官僚による大学監督の要不要との区別についてのメモ〕	1枚
鳥養	102 F-7-2				〔総長会議案についての会合における進行メモ〕	4枚 冒頭に「資料(三)の前文朗読」とあり
鳥養	103 F-7-3				〔研究と民主的運営の重点の置き方、大学における選挙、若手教員の発言権についてのメモ〕	1枚
鳥養	104 F-7-4				資料(三) 大学法試案に対する国立大学総長会議の見解	自筆書込あり 1948.11.20 文部省との会合
鳥養	105 F-7-5				国立大学に「理事会」設置の義に対する意見書	3枚 自筆書込あり 旧帝大総長連署

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 106	F-8	1975	10	1	『洛友会会報』第93号	「記事3P山元海門」との書込あり 「雑」との異筆付箋あり
鳥養 107	F-9	1968	10	1	『洛友会会報』第58号	1頁に鳥養利三郎「人生を語る（終戦直後の京大導く）」あり
鳥養 108	F-10	1969	6	28	『洛友会中国支部資料』	1枚 役員改選、会計報告など 紛争解決についての書込あり
鳥養 109	F-11	1950	6		『新制大学の在り方』	鳥養利三郎『電気評論』第38巻第4号1頁
鳥養 110	F-12	1950	8		「再、大学の在り方に就いて」	鳥養利三郎『電気評論』第38巻第6号1～2頁 5部
鳥養 111	F-13	1951	1	16	ガバナー月報写	1枚 ガバナー手島知健報告 ローターリークラブ会長・幹事宛 第7信 朱囲みあり
鳥養 112	F-14				〔白紙〕	4枚
鳥養 113	G-1				Greeting and Report	2枚 Risaburo Torikai (C) とあり
鳥養 114	G-2				〔日本のユネスコ活動の経緯と現状についての草稿〕	4枚
鳥養 115	G-3				1963～64年度ユネスコ事業計画予算案に対する意見(案)	14枚
鳥養 116	G-4				〔日本国民に対する第12回ユネスコ総会のレポート(草稿)〕	1枚
鳥養 117	G-5-1				〔ユネスコの活動に関するスピーチ草稿〕	3枚
鳥養 118	G-5-2				〔ユネスコの今後の発展に関するメモ〕	1枚 英文
鳥養 119	G-5-3				〔ユネスコの活動に関するスピーチ草稿〕	2枚 英文 手書き修正あり
鳥養 120	G-6				〔ユネスコによる教育普及援助活動に関する草稿〕	3枚 (B) とあり
鳥養 121	G-7				〔ユネスコ総会におけるスピーチ草稿〕	2枚 英文
鳥養 122	G-8				Speech by Head of the Japanese Delegation at the general Conference of Unesco (Twelfth Session)	10枚 手書き修正あり
鳥養 123	G-9-1				〔ユネスコ総会におけるスピーチ草稿〕	2枚
鳥養 124	G-9-2				〔ユネスコ総会におけるスピーチ草稿〕	1枚 英文
鳥養 125	G-9-3				〔英文草稿〕	1枚
鳥養 126	G-10	1965	3	9	〔JAPANESE NATIONAL COMMISSION FOR UNESCO MEETING OF EXPARTS ON YOUTH IN ASIA 関係資料〕	プログラム、レジュメ (英文タイプ打) 3.10～3.16開催 表紙に「鳥養 TORIKAI」とあり
鳥養 127	H-1				〔ロータリークラブスピーチメモ〕	1枚
鳥養 128	H-2	1957	11		『ポールハリスとロータリーの生い立ち 元ガバナー鳥養利三郎先生講演録』	宮津ロータリークラブ 表紙に自筆書込あり
鳥養 129	H-3				言上	3枚 恩賞に対する答礼 久留米ロータリークラブメモ箋
鳥養 130	H-4				〔国際ロータリースピーチメモ〕	4枚 国際ロータリー 第64区第2回年次大会(長崎)
鳥養 131	H-5				〔国際ロータリー委員会欠員に関するメモ〕	国際ロータリー 第64区第2回年次大会(長崎) 英文
鳥養 132	H-6	1970	11	21	ロータリークラブの『職業奉仕』について	京都RC会員藤井正三 水口RC例会でのスピーチ

識別番号	所在番号	年	月	日	資	料	名	備	考
鳥養 133	H-7	1971	2				「今年やがて入社されるあなたに」	藤井大丸取締役会長・藤井正三「高卒女子が大半でございます」との書込あり	
鳥養 134	H-8	1968	9	1			〔授業料改定表〕	1枚 英文	
鳥養 135	H-9-1						〔ロータリークラブ60周年スピーチ草稿〕	10枚	
鳥養 136	H-9-2						〔ロータリークラブ60周年スピーチ草稿〕	12枚	
鳥養 137	H-9-3						〔ロータリークラブ60周年スピーチ草稿〕	5枚	
鳥養 138	H-10-1						〔ロータリークラブ60周年スピーチメモ〕	9枚「ロータリー」との異筆付箋あり	
鳥養 139	H-10-2						〔ロータリークラブに関するメモ〕	1枚	
鳥養 140	H-10-3						〔ロータリークラブ60周年スピーチ草稿〕	13枚	
鳥養 141	H-10-4						〔ロータリークラブに関するメモ〕	3枚	
鳥養 142	H-11-1						〔ロータリークラブ50周年スピーチメモ〕	2枚	
鳥養 143	H-11-2						〔ロータリーの50年〕	16枚	
鳥養 144	H-11-3						〔ロータリークラブ60周年スピーチ草稿〕	6枚 部分	
鳥養 145	H-11-4						〔自由団体のつとめとロータリー〕	10枚	
鳥養 146	I-1						〔水資源は有り余っている〕	ボルフガング・ランゲビージェ『リーダーズダイジェスト』所収	
鳥養 147	I-2-1						〔スピーチ草稿〕	3枚 英文	
鳥養 148	I-2-2						〔ユネスコに関するスピーチ草稿〕	12枚	
鳥養 149	I-3	1965	9				〔ユネスコ関係メモ・切り抜き〕	1枚 ユネスコ主催世界文部大臣会議記事(識字教育問題) 各国学生についてのメモ	
鳥養 150	I-4-1						〔氏名の書き込まれたメモ〕	1枚	
鳥養 151	I-4-2	1964			*		〔ユネスコ関係メモ〕	12枚「1964 ユネスコ」との異筆付箋あり	
鳥養 152	I-5-1						〔ユネスコの理念に関するメモ〕	1枚	
鳥養 153	I-5-2						〔世界平和と平等化に関するメモ〕	2枚「ユネスコ」との異筆付箋あり	
鳥養 154	I-5-3						〔ユネスコの事業に関するメモ〕	6枚	
鳥養 155	I-5-4						明るい国際社会を築くために	13枚 草稿	
鳥養 156	I-6-1						〔教育と経済開発との関係についてのメモ〕	1枚「ユネスコ」との異筆付箋あり 前切れ	
鳥養 157	I-6-2						〔平和の希求についてのメモ〕	3枚	
鳥養 158	I-6-3						〔国際機関の国際援助活動についてのメモ〕	4枚	
鳥養 159	I-6-4						〔国際学術団体、ユネスコの科学活動、UNESCO COUPON の利用についてのメモ〕	6枚「1963, August Japanese Scientific Monthly Vol.16 No.5 学術月報」 との表題あり	
鳥養 160	I-7						〔国際機関、その略称についてのメモ〕	3枚	
鳥養 161	I-8						〔ロータリークラブ、経済援助、ユネスコに関するノート〕		

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 162	J-1				〔ロータリークラブの事業募金とロータリー・地方・国家の三者関係についてのメモ〕	2枚 R.I第61区ガバナー事務所メモ用箋
鳥養 163	J-2				〔国際ロータリー第61区の活動に関するメモ〕	5枚 R.I第61区ガバナー事務所メモ用箋
鳥養 164	J-3				〔ロータリーの活動原則に関するメモ〕	5枚 R.I第61区ガバナー事務所メモ用箋
鳥養 165	J-4				〔ロータリークラブ関係スピーチ草稿〕	8枚 長崎観光ホテルメモ用箋
鳥養 166	J-5				〔ロータリーの活動原則に関するメモ〕	2枚 R.I第61区ガバナー事務所メモ用箋
鳥養 167	J-6				〔日印関係についてのスピーチ原稿〕	3枚 ①不明」との異筆書込あり
鳥養 168	J-7-1				自由団体のつとめとロータリー	11枚
鳥養 169	J-7-2				〔スピーチ草稿〕	1枚 ロータリー第64区年次大会（広島）メモ用箋
鳥養 170	J-8				ガバナーノミニエの詮衡に就て	3枚
鳥養 171	J-9	1952	10	18	〔ロータリークラブ挨拶草稿〕	11枚「鳥取チャーターナイト」との表題あり R.I第61区ガバナー事務所メモ用箋
鳥養 172	J-10-1				自由団体のつとめとロータリー	10枚
鳥養 173	J-10-2				〔日本の現状と自由団体にに関するメモ〕	1枚
鳥養 174	J-11				自由団体のつとめとロータリー	12枚
鳥養 175	J-12-1				〔ロータリーの運営に関するメモ〕	6枚
鳥養 176	J-12-2				バランスのとれた計画の必要	1枚 元ガバナー石川芳次郎（京都）自筆書込あり
鳥養 177	K-1				〔本四連絡橋に関する新聞記事〕	翌年から3ルート同時着工されることについての記事
鳥養 178	K-2-1				〔「民族問題」としての「瀬戸内海問題」に関する草稿〕	3枚
鳥養 179	K-2-2				〔本四連絡橋に関する草稿〕	1枚 部分
鳥養 180	K-2-3				〔「今度のテロ」との関連での本四連絡橋に関するメモ〕	1枚
鳥養 181	K-3				〔本四連絡橋に関する草稿〕	19枚
鳥養 182	K-4	1970	6		本州・四国連絡橋神戸鳴門線 事業計画と採算性（要約）	本土淡路四国連絡橋架設促進協議会 表紙に書き込み
鳥養 183	K-5	1972	7		鳴門・神戸架橋建設基金京都協力会創立総会資料	京都徳島県人会 表紙に書き込み
鳥養 184	K-6				〔空袋〕	「一九七二年・九月 原稿『鳴門大橋』と自筆書込あり
鳥養 185	L-1-1				〔科学とスポーツに関するメモ〕	2枚
鳥養 186	L-1-2				〔日本の「後進国」への科学技術援助に関するメモ〕	5枚
鳥養 187	L-1-3				〔日本人発明の応用物理学・化学に関するメモ〕	3枚
鳥養 188	L-2				〔「左翼」の動向等に関するメモ〕	1枚 民主主義教育協会原稿用紙
鳥養 189	L-3	1957	5	20	挨拶	6枚 理事長鳥養利三郎 研究所四十周年式典
鳥養 190	L-4				チタニウム整流体の話	2部 鳥養家でのインタビューナリオ 鳥養用・妻と娘用
鳥養 191	L-5				〔家建替見取り図〕	2枚 裏に産学協同に関するメモ

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養	192				〔人類とエネルギーに関するメモ〕	6枚
鳥養	193				〔電磁波に関するメモ〕	1枚
鳥養	194				〔半導体に関するメモ〕	3枚
鳥養	195				〔電磁波・半導体に関するメモ〕	1枚
鳥養	196				〔電磁波と通信に関するメモ〕	1枚
鳥養	197				〔電灯の発達80年に関するメモ〕	5枚
鳥養	198				〔半生と電子工学に関するメモ〕	7枚「原子力と電子学」他
鳥養	199				〔電子工学・電子工業と学問文化の発展・産業の発展に関するメモ〕	3枚
鳥養	200				半導体について	2枚 鳥養利三郎 自筆修正あり
鳥養	201				半導体	23枚 草稿 水曜会原稿用紙
鳥養	202				〔自著論文についての補足メモ〕	1枚 西村秀雄 水曜会原稿用紙
鳥養	203				応用科学研究所五十年史座談会	鳥養他による懷古談
鳥養	204	1970	9	21	第5回創造性開発研究会総会開催につきお願いの件	1枚 財団法人大阪科学技術センター人材養成事業担当副会長長森壽五郎より鳥養利三郎宛
鳥養	205				創造性開発研究会総会経過報告	1枚
鳥養	206				〔市川の功績に関するメモ〕	2枚
鳥養	207	1972	4	26	京都分析センターと応用科学研究所の相互協力に就て	3枚 草稿
鳥養	208				〔電子工学専門技術者としての半生に関する草稿〕	5枚
鳥養	209	1972	3	14	〔日本学士院賞受賞者に関する新聞記事切り抜き〕	1枚 自筆書込あり
鳥養	210				工学博士前田憲一君の「電離層に関する研究」の授賞審査 要旨	自筆書込あり
鳥養	211				〔マルコニーと電離層に関するメモ〕	2枚
鳥養	212				工学博士前田憲一君の「電離層に関する研究」の授賞審査 要旨	自筆書込あり
鳥養	213	1968	2		「世界リードする日本の工業技術」	元AP通信社記者井上博「リーダーズダイジェスト」第23巻第2号 自筆書込あり
鳥養	214	1961	3		「世はまさに発明時代」	「リーダーズダイジェスト」(号数不明) 自筆書込あり
鳥養	215				〔研究の経緯に関する草稿〕	3枚
鳥養	216				〔歴史についての所感メモ〕	2枚 日本学士院部会開催通知(1973.9.25)の裏「1欠」との異筆付箋あり
鳥養	217		1	17	〔京都コンピューターセンターでのスピーチ草稿〕	4枚十封筒 岡崎京都館にて 学院長鳥養利三郎

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 218	N-7-2				〔京都コンピューターセンター学院長就任挨拶草稿〕	3 枚
鳥養 219	N-8				大黒部幹線増設工事完成	1 枚 所感メモ貼り付けあり
鳥養 220	N-9				ITINERARY FOR MR. AND MRS. GEORGE R. MEANS	1 枚 行動予定表
鳥養 221	N-10				『敗戦の痕』送付先名簿	49 枚
鳥養 222	O-1				一刀三礼の精神	鳥養利三郎「昭和8年頃の記事」と自筆書込あり 郡是工場見学時のこと 典拠不明（「一家一言」のコーナー）
鳥養 223	O-2	1967	12	1	『思い出』	鳥養利三郎『中央電気倶楽部月報』第186号 2部
鳥養 224	O-3	1968	1	1	『所感—文化功労賞をお受けして—』	鳥養利三郎『大阪国際サイエンスクラブ会報』第16号
鳥養 225	O-4	1969	1	25	『新年のご挨拶を兼ねて』	鳥養利三郎『生活科学』第15巻第1号
鳥養 226	O-5	1969	4	1	『世界で二番目』	鳥養利三郎『科学朝日』1969年4月号
鳥養 227	O-6				鳥養利三郎博士研究業績	2 枚
鳥養 228	O-7	1967			『郡是から国是へ』	鳥養利三郎『洛友会会報』第53号
鳥養 229	O-8				〔空袋〕	『執筆集』との自筆書込あり
鳥養 230	α -1	1934	6	27	〔アメリカ旅日記〕	8月18日まで 表紙に「① AMERICA 27 June-18 Aug.」とあり 汽車?の写真ネガ2枚挟み込み
鳥養 231	α -2	1934	8	24	〔ヨーロッパ旅日記〕	9月12日まで 表紙に「(2) 8/24, 9/12 London, (England) Berlin, (Deutsch) 9/13.」とあり
鳥養 232	α -3	1934	10	23	〔ヨーロッパ旅日記〕	11月20日まで 表紙に「Deutschland, Schweiz, Italy, Paris, Orient, 1934, Oct-Dec. ③」とあり 帰国途中のアジア記述あり
鳥養 233	α -4	1950			〔アメリカ旅日記〕	表紙に「No. 1 1950」とあり 書簡や名刺（紹介用）挟み込みあり
鳥養 234	α -5	1950			〔アメリカ旅日記〕	表紙に「No. 2. 四月五日起」とあり メモ・徽章・名刺の挟み込みあり
鳥養 235	α -6	1952 ～ 1953			〔アメリカ・メキシコ旅日記・ロータリークラブ訪問記〕	表紙に「DIARY 1952-1953 R. TORIKAI KYOTO UNIV. JAPAN」とあり ロータリークラブ関係・別子鉱業所銅精錬系統図などのメモ・切り抜き等挟み込みあり
鳥養 236	α -7				〔研究に関するメモ〕	ほとんど白紙の手帳
鳥養 237	β -1-1	1974	11	15	『鳥養利三郎先生随想集』	（財）応用化学研究所内 林千博発行 鳥養米寿記念
鳥養 238	β -1-2	1974	11	15	『鳥養利三郎先生随想集』	（財）応用化学研究所内 林千博発行 鳥養米寿記念
鳥養 239	β -2	1968	2	29	『敗戦の痕』	仁友会代表鳥養利三郎「自宅用」と表に書込あり
鳥養 240	β -3-1	1971	4		『日本学士院会員名簿』	授賞審査関係資料挟み込みあり
鳥養 241	β -3-2	1972	4		『日本学士院会員名簿』	葉書3枚挟み込みあり（逝去通知）
鳥養 242	β -3-3	1973	3		『日本学士院会員名簿』	葉書1枚挟み込みあり（逝去通知）

識別番号	所在番号	年	月	日	資料名	備考
鳥養 243	β-3-4	1976	6		『日本学士院会員名簿』	
鳥養 244	β-4	1948	9	1	KYOTO UNIVERSITY PERSONNEL 1948	ALPHABETICAL LISTING OF TEACHING & RESEARCH 京大発行の英文教員録
鳥養 245	β-5	1975	12	1	『洛友会会員名簿』	工学部電気工学科教室
鳥養 246	β-6	1977	4	1	『洛友会会報』第99号 鳥養利三郎先生追悼号	
鳥養 247	β-7	1974	10	20	『原子力関係京都大学同窓名簿』	京都大学原子核工学教室同窓会しの実会東京支部編 3月調査
鳥養 248	β-8	1948	12	5	『日本における科学と技術の再編成—米国学術顧問団報告書』	日本学術振興会編 Reorganization of Science and Technology in Japan
鳥養 249	β-9	1962	3	15	『国際理解の教育』	内海巖、永井滋郎 IDE 教育資料第22集 裏表紙に書込あり
鳥養 250	β-10	1948	10	20	『米国学術諮問団本邦学術体制視察報告書 日本に於ける学術と技術の改組』	1947.8.28 付報告書 教育協会訳 裏表紙に書込あり
鳥養 251	β-11	1918	9	10	『臨済録』	「妙心寺管長古川大航」他、書込あり
鳥養 252	β-12-1				『出席簿』	表紙に「電力演習」とあり (中は白紙)
鳥養 253	β-12-2				『出席簿』	表紙に「実験」とあり (中は白紙)
鳥養 254	β-12-3				『出席簿』	表紙に「電気磁気学演習 鳥養教授」とあり (中は白紙)
鳥養 255	β-13	1951 ～ 1974			〔小銭会関係資料〕	京大学生への小口短期融資のための寄附団体 (代表者: 鳥養昭子 (利三郎夫人)) 1970.6 まで存続 学生部とのやりとりや新聞記事、受領証等
鳥養 256	β-14-1	1974	10	9	感謝状	聖ヨゼフ整肢園ボランティアより鳥養昭宛
鳥養 257	β-14-2	1929	9	1	〔マリアレナ院長送別記念写真〕	
鳥養 258	β-14-3	1973	5	2	〔癸亥会五十周年記念大会鳥養宛寄せ書き〕	於京都・ホテルフジタ 鳥養先生賀壽謝恩
鳥養 259	β-14-4				御結納之葉	京都市四条高倉西 松屋
鳥養 260	β-15	1975	6	19	THOMANERCHOR LEIPZIG DDR DRESDNER PHILHARMONIE 1975 JAPAN	ライプツィヒと聖トーマス教会合唱団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団日本公演パンフレット「音楽関係」との異筆付箋あり
鳥養 261	β-16-1				BACH Matthäus-Passion BWV244	マタイ受難曲スコア
鳥養 262	β-16-2				DER THOMANERCHOR ZU LEIPZIG	ライプツィヒと聖トーマス教会合唱団の概覧
鳥養 263	β-17				〔Saltoro Kangri 峰写真パネル〕	社団法人京都大学学芸山岳会 1962.7.24 初登頂したときのもの 裏面に解説あり
鳥養 264	β-18	1963	5	頃	〔新・人国記 徳島県〕①～⑩	朝日新聞切り抜き 反故紙に貼ってとじ合わせ 封筒入り ⑩に1963.5.25の日付あり ⑧に鳥養が登場
鳥養 265	β-19				〔林千博「非線形振動の研究」およびそれに対する鳥養の訂正など〕	履歴等もあり 島津製作所の茶封筒入り

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 266	β-20				〔林千博「非線形振動の研究」およびそれに対する鳥養のコメント・メモ〕	〔林千博業績〕と異筆書込あり
鳥養 267	β-21	1967	11		『電気評論』復刊創刊号	鳥養による巻頭言あり
鳥養 268	β-22	1971			『要覧』	財団法人応用化学研究所
鳥養 269	β-23				〔日本地図シリーズ〕	10枚 農林中央金庫京都事務所広告 島根・鳥取など10県
鳥養 270	β-24	1973			〔Leipzig〕	Herbert Lachmann Ferkinand May 写真集
鳥養 271	β-25				『京都大学概覧 昭和50年度』	
鳥養 272	β-26	1992	10		〔『著作権台帳』第22版 調査票〕	日本著作権協議会 鳥養昭宛
鳥養 273	β-27-1				〔阿波宮大麻比古神社絵葉書〕	5枚 社務所×2・独逸橋・大鳥居並に参道松並木・社前祇川橋
鳥養 274	β-27-2				〔メキシコ絵葉書〕	6枚
鳥養 275	β-27-3				〔ニューヨーク・レイクプラシッドクラブ絵葉書〕	1枚
鳥養 276	β-27-4				〔京都大学文学部五十周年記念絵葉書〕	1枚 国史研究室所蔵大村純忠書状
鳥養 277	β-27-5				〔ボストン美術館絵葉書〕	6枚 平治物語絵巻
鳥養 278	β-27-6				中尊寺国宝絵葉書 第一輯	7枚 金色堂
鳥養 279	β-27-7	1992	4	21	『いぶきレポート No.51 いぶきの国会レポート』	国会議員伊吹文明 鳥養昭宛
鳥養 280	β-27-8	1992		*	1992年度(平成4年度)高野教会年間行事予定	
鳥養 281	β-28				〔空封筒〕	計18枚 大きざいろいろ 京都市行政経済研究所やガール・スカウト 日本連盟京都支部のものもあり
鳥養 282	β-29				〔スクラップブック〕	白紙
鳥養 283	β-30				〔空バインダー〕	青布表紙 空茶封筒1枚挟み込みあり
鳥養 284	①-1				〔社会党・大学と財閥などについての所感メモ〕	6枚 三菱銀行用箋 「同一綴メモ」との異筆書込あり ①のスク ラップブックに「袋A」との異筆付箋あり
鳥養 285	①-2				〔ストライキ学生についてのメモ〕	4枚
鳥養 286	①-2				〔原稿要旨メモ〕	1枚
鳥養 287	①-3				〔大河内総長の談話、社会党と大衆、経済自由化について のメモ〕	1枚 東洋信託銀行封筒
鳥養 288	①-3				〔近代文化人と家についてのメモ〕	1枚 三菱銀行用メモ用紙「信託銀行袋中のメモ2点」との異筆書 込あり
鳥養 289	①-4				〔下書きメモ〕	1枚「道、忍、幾山河、真徳、妙機悟」とあり
鳥養 290	①-4				〔京大の教官事務官の要件、科学技術などについてのメモ〕	1枚「メモ一枚」との異筆書込あり
鳥養 291	①-5				〔卒業生の集いについてのメモ〕	1枚
鳥養 292	①-5				〔日本における民主主義の現状についてのメモ〕	1枚

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 293	①-5				[日本人と左翼についてのメモ]	1枚
鳥養 294	①-5				[左翼などについてのメモ]	1枚 裏にもあり
鳥養 295	①-5				[戦争反省録・実録流行時期のについての回想メモ]	1枚
鳥養 296	①-6				[洛友会・同窓会・社会党についてのメモ]	1枚
鳥養 297	①-6				[社会改良についてのメモ]	1枚
鳥養 298	①-7				[「汗と涙がにじんんでいる」からのメモ]	1枚 典拠不明
鳥養 299	①-7				[修学院オートメーションセンター閉鎖についてのメモ]	1枚
鳥養 300	①-8				[学生に対するスピーチメモ]	1枚 ROTARY'S GOLDEN ANNIVERSARY 用箋
鳥養 301	①-9				[雑メモ]	1枚 人名列挙「終戦の思い出」「日本産業の発展」等の文字あり
鳥養 302	①-10	1967	6	19	ROTARY CLUB KYOTO-WEST 週報 No 10-49	書込あり 第477回ミーティングのプログラム他諸報告事項
鳥養 303	①-11	1967	5	*	[憲法発布20年に際してのメモ]	3枚
鳥養 304	①-12				[社会状況・共産主義・歴史などについてのメモ]	9枚 住友銀行用箋 簡条書き
鳥養 305	①-13				[雑メモ]	6枚 国際ロータリー第64区年次大会(広島)用箋 簡条書き「袋B」との異筆付箋あり「同一綴メモ」との異筆書込あり
鳥養 306	①-14				[原子力問題についてのメモ]	1枚 葉書の余白に書込
鳥養 307	①-14				[ジャーナリズム・政党・学問の基本についてのメモ]	1枚 葉書の余白に書込
鳥養 308	①-15				[郷里徳島におけるスピーチ草稿]	2枚 断片
鳥養 309	①-16				[後進国の開発と後進国への日本の文化的進出についてのメモ]	1枚 ①-20の続き
鳥養 310	①-17				[郷里徳島におけるスピーチ草稿]	3枚
鳥養 311	①-18	1956	9	21	[教育学部特別講演会案内および挨拶草稿]	1枚 教育学部特別講演会(講師:ミシガン大学教授アルゴ・D・ヘンダーソン)案内の裏に特別講演会での英文挨拶草稿
鳥養 312	①-19				[Powerの意義とその義務などについてのメモ]	4枚「同一綴メモ(イ)」との異筆書込あり ROTARY'S GOLDEN ANNIVERSARY 用箋
鳥養 313	①-20				[後進国の開発についてのメモ]	1枚 ①-16に続く
鳥養 314	①-21				[判断と知識の重要性についてのメモ]	5枚 THE ROTARY CLUB OF KOBE 用箋(社)日本繊維機械学会大会プログラム余白も利用「同一綴メモ」との異筆書込あり
鳥養 315	②-1				[京大の学風についてのメモ]	1枚
鳥養 316	②-1				[国際理解・協力・開発などについてのメモ]	7枚 三菱銀行用箋「袋C」との異筆付箋あり
鳥養 317	②-2				[国際理解と京都の位置についてのメモ]	7枚 三菱銀行用箋「同一綴メモ」との異筆書込あり
鳥養 318	②-3				[個人の尊重と協力についてのメモ]	4枚

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 319	②-4				〔日本ユネスコの発展、前田多門との縁、安保問題についてのメモ〕	2枚 「京都S封筒と同一綴」との異筆書込あり
鳥養 320	②-5				〔国際援助と京都観光案内についてのメモ〕	2枚
鳥養 321	②-5				〔外国人のための観光サービスについてのメモ〕	1枚 「同一綴メモ3点」との異筆書込あり
鳥養 322	②-6				〔雑感メモ〕	1枚 京都新聞社の封筒に書込「ローマ字論」「入学試験」「京都の疎水」「駅弁大学」「月給」「新旧大学生」の比較等々の文字あり
鳥養 323	②-6				〔平和についてのメモ〕	1枚 「同一綴メモ」との異筆書込あり
鳥養 324	②-7				〔日本社会と社会党についてのメモ〕	1枚
鳥養 325	②-7				〔社会の進歩、科学の総合的発展と電子工学についてのメモ〕	1枚
鳥養 326	②-8				〔電気関係学科設置校についてのメモ〕	1枚 「32年度調」とあり「京都S封筒など」と同一綴「メモ」との異筆書込あり
鳥養 327	②-9				〔発明についてのメモ〕	1枚 「袋D」との異筆付箋あり
鳥養 328	②-9				〔科学の実用的研究と発明についてのメモ〕	1枚
鳥養 329	②-10				〔理事会メモ〕	1枚 裏にアフリカ問題と文部大臣会議についてのメモあり
鳥養 330	②-10				〔国際協力とユネスコについてのメモ〕	1枚 国際連合広報センター「国際協力の道しるべ」(1965)の表紙切り抜きに書き込み
鳥養 331	②-11				〔学校制度などについてのメモ〕	1枚
鳥養 332	②-12				〔発明と教育についてのメモ〕	1枚 日本経営者団体連盟教育委員会の「新時代の要請に対応する技術教育に関する意見」(1956.12)の表紙に書込
鳥養 333	②-13				〔婦人週間標語についてのメモ〕	1枚 裏に「日本の電車」(歴史)についてのメモあり
鳥養 334	②-14				〔教育関係委員会の組織化と教育方法についてのメモ〕	1枚
鳥養 335	②-15				〔公共物破壊と送検についてのメモ〕	2枚 「同一紙に貼付」との異筆書込あり
鳥養 336	②-15				〔地方分権と東京についてのメモ〕	1枚 三菱銀行メモ用紙
鳥養 337	②-15				〔同窓生、知識と学問の関係についてのメモ〕	1枚 三菱銀行メモ用紙
鳥養 338	②-15				〔東南アジアの日本人についてのメモ〕	1枚 三菱銀行メモ用紙
鳥養 339	②-16				〔自国防衛・国連・ユネスコについての所感メモ〕	1枚 三菱銀行用箋
鳥養 340	②-17				〔スピーチ用メモ〕	3枚 「大阪瓦斯と電気」「新入社者への祝意」「学制改革」「河合信水の掃除の話」「月給の定義」「ジレットの話」「英国の社会政策」との項目あり
鳥養 341	②-17				〔理論と実際についてのメモ〕	1枚
鳥養 342	②-17				〔研究の自由についてのメモ〕	1枚 「前頁メモの続き」との異筆書込あり

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 343	②-18				[電気工学に関する回顧談メモ]	3枚「(A)」との異筆書込あり
鳥養 344	②-18				[ドイツの高周波石炭液化技術見学についてのメモ]	1枚 三菱銀行メモ用紙
鳥養 345	②-19				[食住の変化、自然科学に利用方法についてのメモ]	2枚「(B)」との異筆書込あり
鳥養 346	②-19				[銀行の配当金、科学技術についてのメモ]	1枚
鳥養 347	②-19				[老人の酒談における話題についてのメモ]	1枚
鳥養 348	②-20				[時評メモ]	1枚 項目列挙「(C)」との異筆書込あり メートル法・古都保存法・野党などについて
鳥養 349	②-21				[学者と信念についてのメモ]	1枚「(D)」との異筆書込あり
鳥養 350	②-22				[計算メモ]	1枚「(E)」との異筆書込あり 裏に科学技術についてのメモあり
鳥養 351	②-23				[風邪薬、振動論についてのメモ]	1枚
鳥養 352	②-24				[ロータリークラブの現状についてのメモ]	1枚 京都ロータリークラブの「クラブ活動の概況報告」(1971.8.11)の表紙に書込
鳥養 353	②-25				[マッカーサーの死に際してのメモ]	1枚「a」との異筆書込あり 台紙に「同一綴メモ」との異筆書込あり
鳥養 354	②-25				[観光政策についてのメモ]	1枚「b」との異筆書込あり「民主主義」「学問と知識の分離」「テレビの罪」との項目あり
鳥養 355	②-25				[教養部学生の落第ノイローゼについてのメモ]	1枚「c」との異筆書込あり
鳥養 356	②-26				[アメリカ年表メモ]	1枚 1891～1935の諸事件年表メモ
鳥養 357	②-27				[日本の大学についてのメモ]	1枚 明細書の裏に書込 米粉・片栗粉・エンジンの思い出、大和武蔵についてのメモあり
鳥養 358	②-28				[備忘メモ]	1枚 加柴青年の経歴・立志伝・写真・嫁取り談などの文字あり 弟子・知人からの援助についてのメモあり
鳥養 359	②-29				[書簡草稿]	2枚 英文 “Mr. Director of Bureau of Culture” に宛てたもの
鳥養 360	③-1				[発明受賞にあたっての挨拶草稿]	2枚「袋D」との異筆付箋あり
鳥養 361	③-2				[Warnerの京都・奈良、東南アジア政策、ロータリーについてのメモ]	1枚
鳥養 362	③-3				[ロータリー関係メモ]	1枚
鳥養 363	③-4				[ロータリー関係メモ]	2枚
鳥養 364	③-5				[学問の自由・科学の発達などについてのメモ]	3枚
鳥養 365	③-6				[基礎研究の産業への利用についてのメモ]	1枚
鳥養 366	③-7				日本の工業教育の諸問題	11枚 講演草稿 1枚目に「ユネスコ袋中のもの」、2枚目に「袋E」との異筆付箋あり

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 367	③-8				〔日本の歴史や社会についての所感メモ〕	1枚
鳥養 368	③-9				〔現時の日本人と左翼、ユネスコについてのメモ〕	1枚
鳥養 369	④-1-1				〔研究の自由と個人の尊重についてのメモ〕	1枚 371まで同一の台紙に貼付、「A」「B」「C」「同一綴」との異筆書込あり
鳥養 370	④-1-2				〔研究における主観性と客観性についてのメモ〕	1枚
鳥養 371	④-1-3				〔京大教授を誇りとするメモ〕	1枚
鳥養 372	④-2				〔分校の外部移転についてのメモ〕	2枚
鳥養 373	④-3	1969	5	17	住谷悦治「京大本館前庭の樟樹」	1枚 読売新聞 1969.5.17 付 自筆書込あり
鳥養 374	④-3				〔本館前庭の樟樹碑文の写し、読本、配置図〕	4枚
鳥養 375	④-4	1967		*	〔老人についてのメモ〕	4枚
鳥養 376	④-5	1949		*	〔鳥養利三郎履歴書〕	5枚 1910三高卒業より 1949.10.5日本学士院会員就任まで「履歴書」との異筆書込あり
鳥養 377	④-6				〔退任に際しての所感メモ〕	1枚 裏には通信学会からの表彰についてのメモあり
鳥養 378	④-7	1949		*	〔教授会に関わる規程草案〕	1枚 欄外に「12」との自筆書込あり
鳥養 379	④-8				〔京北の山林原野とその利用についてのメモ〕	新電元工業株式会社封筒に書き込み
鳥養 380	④-9				〔追悼文メモ〕	故人は学者仲間か（特定不可）JAPAN LINEの空封筒に書き込み
鳥養 381	⑤-1				〔日本におけるロータリークラブの歴史についてのメモ〕	5枚 三菱銀行用箋
鳥養 382	⑤-1				〔日本のロータリークラブ発足とその苦難についてのメモ〕	2枚 三菱銀行用箋
鳥養 383	⑤-1				〔満州事変前後における日本のロータリークラブについてのメモ〕	1枚 三菱銀行用箋
鳥養 384	⑤-2				〔雑メモ〕	1枚「宮田道雄。林重、林干その他非常に多し 西村秀、西原利 etc.」と書込あり 第一銀行用箋
鳥養 385	⑤-2				〔自由についてのメモ〕	11枚 第一銀行用箋
鳥養 386	⑤-3				〔京大の樟樹についての住谷執筆記事への謝辞草稿〕	1枚「土曜随想原稿へ」との異筆付箋あり
鳥養 387	⑤-4				〔日本の学制改革についてのメモ〕	1枚 391まで同一の台紙に貼付「黄色の袋入り雑 昭和40年代か」との異筆書込あり
鳥養 388	⑤-4				〔あるべき教師像、緒方塾などについてのメモ〕	1枚 三菱銀行メモ用紙
鳥養 389	⑤-4				〔煙草についてのメモ〕	1枚
鳥養 390	⑤-4				〔日本社会の現状と自然科学についてのメモ〕	4枚
鳥養 391	⑤-4				〔世界の進歩についてのメモ〕	2枚「読売 4.15 夕刊」との書込あり 三菱銀行メモ用紙
鳥養 392	⑤-4				〔ハンダ、電気計算機についてのメモ〕	1枚 395まで同一の台紙に貼付「黄色袋封入」との異筆書込あり
鳥養 393	⑤-4				〔ICの発展と文科関係者についてのメモ〕	1枚

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 394	⑤-4				〔電機機械の全輸入、技術家の心得などについてのメモ〕	1枚
鳥養 395	⑤-4				〔講座制についてのメモ〕	1枚
鳥養 396	⑤-5				〔「内藤校長」とのつき合いや仁友会についてのメモ〕	1枚
鳥養 397	⑤-6				〔敗戦直後の大学・京大を取り巻く状況と京大の活動についてのメモ〕	8枚
鳥養 398	⑤-7				〔自然科学研究と社会発展についてのメモ〕	1枚 [昭43.3.1付火災保険勧誘紙のウラ]との異筆書込あり
鳥養 399	⑤-8				〔「不満分子」についてのメモ〕	3枚
鳥養 400	⑤-9	1961	10	18	〔皇居園遊会への招待状〕	宮内庁長官より日本ユネスコ国内委員会会長鳥養利三郎・同令夫人宛
鳥養 401	⑤-10				〔教育使節団の来日と漢字制限問題についてのメモ〕	1枚
鳥養 402	⑤-10				〔「悪いこと」の定義についてのメモ〕	1枚
鳥養 403	⑤-10				〔「悪いこと」の定義についてのメモ〕	1枚 三菱銀行メモ用紙
鳥養 404	⑤-10				〔奨学金、大日本印刷についてのメモ〕	1枚
鳥養 405	⑤-11				〔学制改革についてのメモ〕	1枚
鳥養 406	⑤-12	1949	11	25	The Mainichi No. 9570	英字新聞 京都での Thanksgiving Day の記事 鳥養は挨拶者の一人
鳥養 407	⑥-1				〔スピーチ原稿〕	5枚 [袋 A] との異筆付箋あり 現代社会の的確な把握の困難性と必要性、「中共」への批判など
鳥養 408	⑥-2				〔大学と教授についての草稿〕	4枚 [袋 A] との異筆付箋あり 旧帝大時代の教授、大学紛争と教授、教授の力量、共同研究など
鳥養 409	⑥-3				〔京都市青少年科学センター開設に寄せた文章草稿〕	4枚 [袋 B] との異筆付箋あり 渦の音編集部用箋
鳥養 410	⑥-4				教育制度及研究体制の改革	14枚 [袋 C] との異筆付箋あり
鳥養 411	⑥-5				〔京都新聞社教育賞第1回授賞候補者審査についての報告と祝辞〕	5枚 [袋 D] との異筆付箋あり
鳥養 412	⑥-6				〔電気工学についての研究メモ〕	3枚 [袋 D] との異筆付箋あり パラメトロン、江崎ダイオード、チタン酸バリウム半導体について
鳥養 413	⑥-7				〔教育についての文章草稿〕	3枚 [袋 D] との異筆付箋あり
鳥養 414	⑥-8				〔教育についての文章草稿〕	4枚 [袋 D] との異筆付箋あり
鳥養 415	⑥-9	1977	4	1	『洛友会々報』第99号 鳥養利三郎先生追悼号	14頁 京大電気工学科教室OB会報「袋 E」との異筆付箋あり
鳥養 416	⑥-10				〔繁栄鼎談〕(座談会 日本の再建繁栄を語る)	5枚 松下幸之助・湯川秀樹との鼎談『PHP』1947年5月号 417に同封「袋 E」との異筆付箋あり
鳥養 417	⑥-10	1992	5	13	〔「繁栄鼎談」の「松下幸之助発言集」への収録依頼書〕	1枚 PHP 総合研究所常務取締役研究本部長より鳥養昭宛

識別番号	所在番号	年	月	日	資 料 名	備 考
鳥養 418	⑥-10	1992	5	25	〔「繁栄鼎談」の「松下幸之助発言集」への収録承諾に対する礼状〕	1枚 PHP 総合研究所常務取締役研究本部長より鳥養昭宛
鳥養 419	⑥-11	1933		*	一刀三礼の精神	2枚 鳥養利三郎「袋E」との異筆付箋あり 書込・裏メモあり
鳥養 420	⑦-1	1960	7	23	人 ユネスコ国内委員会長になった鳥養利三郎	紙名不明
鳥養 421	⑦-2	1974	11	3	喜びの県人叙勲者	紙名不明
鳥養 422	⑦-2				「うれしいよ」元京大総長の鳥養さん	1枚「朝日 S39.11.3」との異筆書込あり
鳥養 423	⑦-3	1963	11	3	この道一筋に貫いて 生存者叙勲の人たち	『朝日新聞』第2回生存者叙勲
鳥養 424	⑦-4	1973	7	18	土曜随感	『京都新聞』13年間連載してきた「土曜随感」終了に伴い担当者が会談した記録
鳥養 425	⑦-5				税金使って研究 特許料はポケットに	「年月日新聞名不明」との異筆書込あり
鳥養 426	⑦-6				世界一のカメラとミシン	自筆書込あり「年月日新聞名不明」との異筆書込あり
鳥養 427	⑦-7				土曜随感 那是魂今如何	京大名誉教授鳥養利三郎『京都新聞』カ 朱綴書込あり
鳥養 428	⑦-8	1966	8	23	京都に故郷の気安さ 鳥養利三郎さん	「S41 (1966) 8.23 毎日 S7」との異筆書込あり
鳥養 429	⑦-9	1965	12	1	日本の昨日・今日・明日 小泉信三氏 (慶大名誉教授) の講演から	『京都新聞』「S40.12.1」との異筆書込あり
鳥養 430	⑦-10				東京の阿波踊りこぼれ話	紙名不明
鳥養 431	⑦-10	1963	9	3	この榮しさ たまらない	紙名不明
鳥養 432	⑦-10	1963	9	3	県下はあげて乱調子	紙名不明 見出しのみ
鳥養 433	⑦-10				娘っ子は最高だよ 里帰りしたような気持ち	紙名不明
鳥養 434	⑦-10	1963	9	3	入り乱れて踊り攻防戦	『徳島新聞』
鳥養 435	⑦-10				満月のもと ひしめく踊り	紙名不明 見出しのみ
鳥養 436	⑦-10				本社来訪踊り子連	紙名不明
鳥養 437	⑦-10				踊りいろどる花火の供宴	紙名不明
鳥養 438	⑦-10				おとなの迷い子も続出 ロケ隊も競う	紙名不明
鳥養 439	⑦-10				〔阿波踊り写真〕	紙名不明
鳥養 440	⑦-10	1963	9	3	〔阿波踊り写真〕	『徳島新聞』

